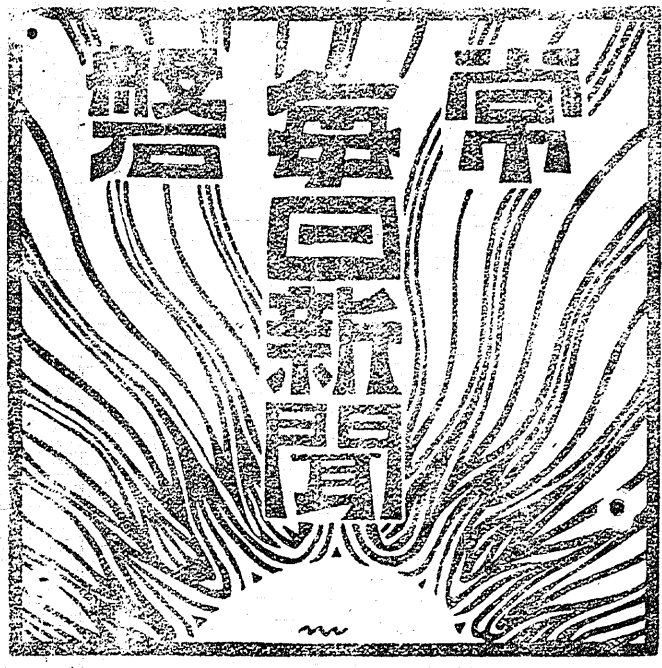


賀正

平窪村
松本
德一

洋時計店
大谷
同春雄
平町三丁目 電話一九番

平材木商業組合
磐井屋
平町一丁目 電話六二一番



發行兼編輯人 川崎文治
印刷所 福島縣石城郡平町長谷町五番地
常報毎日新聞社

年頭の覺悟と確信

社長 川崎文治

「輝かしい今年であらう」との願望は何人も年頭に際して抱く共通の感想である、然して今年をして真に旭日の如き光輝を放たしむるは各個人に與へられた力の發揚に依りて果されるものと確信する。本紙は聖代の餘澤を受けて茲に大正十四年の新天地を迎へ三百廿八號の紙齡を數ふるの光榮を得た、本年度に於ける本紙が「強く、正しく」の主義綱領を把持して其の眞價を發揮し徹頭徹尾諸君の公器としての使命を満足に果し其紙面の上に光輝を燦爛とせしめんには餘程の努力を要すべきを覺悟する、然して余は如何なる難關に遭著すると雖も諸君より委ねられた責任の重大なるを痛感して必らず總べてを完全に爲し遂げ得べしとの確固不拔の精神を有して居る、此覺悟と此確信を失せざる以上必ずや本紙の爲めに「かがやかし本年である」を契ふ事が出来る、余は今年の年頭に際して本紙の成長を欣ぶと共に勇躍進んで得ざる希望に燃わ立つて居る。諸君に於かれても其補育よろしきを得ばより以上の成長進歩を爲すべきであらう故に其責務を余等と共に分擔されん事を切望するものである

刊朝日一月一

謹賀新年

謹賀新年

一月元日 吉



元造醸鹽屋

山崎本店

電話長二七番

吉例により一月一日休業仕候

石城郡選出議員

- | | | | | | |
|-----------|-------------|-------------|-----------|------------|------------|
| 井上茂作 (平町) | 小野晋平 (小名濱町) | 大平睦四郎 (窪田村) | 草野順平 (平町) | 古川傳一 (植田町) | 木村清治 (大浦村) |
|-----------|-------------|-------------|-----------|------------|------------|

和洋銅鐵 久釜屋商店

諸橋久太郎
諸橋守治
電話九番、一三九番

石城郡内郷村

磐城炭礦株式會社

鑛業部

合名會社

中野呉服店

電話六十七番

平陽實科女學校

平町搔槌小路 電話四四五番

高橋龜松

平町白銀町

鹽屋 吳服店

海岸線平町土橋 電話二二番

加藤丈夫

營業所 平町白銀町 電話一三二五番

郡山電氣株式會社平支店

電話七五番、一六三番

清光堂本店

平町二丁目 電話一三三番

磐城建物株式會社

平町五丁目 電話五二八番

關内油店

平町二丁目 電話一六番

有聲座從業員

- | | | | | | | | | |
|----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|-----------|
| 事務所 漆間善助 | 宣傳部 常盤美知男 | 大原部 大原錦凌 | 丸山部 丸山東洲 | 松岡部 松岡春朝 | 富田部 富田秀誠 | 町田部 町田興夫 | 音部 須藤次郎 | 神樂部 神樂萬太郎 |
| 杵屋(お唯) | 馬目元吉 | 小泉元吉 | 清水喜三郎 | 館野銀藏 | 小賀坂章平 | 丹野隆雄 | 表方 | 阿部菊藏 |
| 岩澤千代子 | 平澤千代子 | | | | | | | |

有聲座

帝牛不營

統計の數字が雄辯に 物語る平町の繁盛振

貯金も乗降客も縣下第一 祝盆の價值充分

平町が縣下に於て如何なるものであるから平町が第一等の位置を占めて居るか諸種の成績を示し更に停車場の統計に依つて調べて見ると乗降客に至つては

區別	戸數	人口	區別	乗客	降客
福島市	四一、三三五	七、三二一	福島驛	七五、五四	七二、七九
若松市	四四、五九〇	七、三五一	若松驛	四九、三九	四六、四〇
郡山市	三九、〇〇三	六、九七〇	郡山驛	七三、八四〇	六五、一八四
平町	二四、六七九	四、四九〇	平驛	一〇六、四四一	一〇三、〇〇五

楽しいお正月の 家庭は子供本位に

遊ばして貰ひ度いと
曾我平第一校長語る

兒童達が待ちに待つたお正月も遂々今日からである、此お正月を如何に過ごさしめやうかに就いては親達も相當考へて居る事であらうが、曾我平第一校長曾我直次氏は語るお正月といつては大人には大した喜びも感じないで、やうが子供には非常にうれしいものであるから出来るだけ子供本位にしてお正月を楽しく過ごさしていただきたいと思ひます。ともすれば、

カーサン
アアサウデシタカト
オツシヤル
カーサン

は充分注意して欲しいと思込に第二回の申込を受け付ひます、とかく炬燵に許りける由であつて其間の申込に關しては建設費の全額を負担する由因に料金は一燈一ヶ月金三圓とし六ヶ月分以上前納を要するとの事である。忘れぬ様にお願したい、又女児には出来るだけ家事の實習の意味で實生活の一部の體驗を得させる爲めに家庭の用事に

家庭の 人達もこう

した考で充分に子供達を喜ばして戴きたいと存じます。ばつて戴きたいと存じます。と云つて放任せよと云ふの樂ませせて戴きたい

年賀状は四割減だが 贈答小包は増加した

不可思議な珍現象
半郵便局が戰國準備息りな立証する一方法として、引受けた年賀郵便の特別多大の犠牲を拂へ柱燈式鐵取投数は二十三萬三千三百柱街燈の建設を企圖し一丁六千八百四十八通に比較すると四割二分減を示して居るが廿一日からの年末年始贈答の小包の引受数は昨年の七百五十一個よりも九十六個の増加を示す。これは節減で贈答物の廢止を叫ばれて居る今日の珍現象と云ふべきである

賀正

年頭に當り讀者諸君の益々多幸多福ならん事を祈念す
大正十四年一月元旦
常磐毎日新聞社
社長 川崎文治
印刷部 鈴木實
營業部 高木喬
外従業員一同

平町の夜を 灯の海に

自より五丁目に至る本町通り及び田町、白銀町等に百餘基の建設を見るに至つた。社は地方人教養の有意義なる試みとして是れが後援を承認した

祝福された 子供の世界

川崎社長宅の
コドモ新年會
川崎本社長は例年の吉例により三日午後一時から長橋町自宅に於てコドモ新年會を催し子供達の童話や童謡及び社長のお伽講演等あり終日楽しい子供の世界を出現せしむると

新古 書籍の廉賣

讀書家の福音
半停車場通り郷土社にては地方讀書家の爲めに一月二日から六日迄毎日午前九時より午後五時迄藤田裁縫女學校にて新古書籍廉賣奉仕會を開く筈にて某教育家の解放品や某書店の蔵品其他得難き圖書類多量あり植竹前中校長、櫻井塾女校長、武川校長、櫻井塾女校長、武川平中校長、大和田祐賢學舎長の諸氏贊助し五十餘以上の上の買上りに對しては教育品福引券を呈上する由にて本社は地方人教養の有意義なる試みとして是れが後援を承認した

更春雜詠

柿沼 一好
新春。それは私どもにとつてたえざる喜びであると同時に、一面自己反省を試む可き時ではなからふか！

謹賀新年

石双郷友各位に謹告
從來知友諸君の御住所は之れを芳名録に登載し常に通信上の便覽と致し置き候處一昨秋の震災火災により當該芳名録を焼失し爲めに御住所の判明を缺き遺憾年ら新年に際し賀状の贈呈不可能と相成候間茲に本紙を通じて御祝詞申述べ候

名刺交換會

今日午前九時から聚樂館に於て開會される平町名刺交換會は伏見助役の開辭、伊坂町長の祝詞、萬歳三唱、開宴の順序である

辯護士
千葉彦治
平町田町
電話三六五番

福島縣農工銀行
頭取 白井博之

警城實業銀行專務
鈴木辰三郎

常磐屋時計店
三丁目
大谷時計店
四丁目
會田時計店
南町川岸
作山商店
田町
根本時計店
三丁目
北村時計店
三丁目
坂上時計店
五丁目
金光堂時計店
六丁目
鈴木時計店

赤心堂病院
電話四七五番

高久病院
電話五三三番

松村病院
電話二七三番

飯野村長 山崎吉平

賀正

元代議士 高岡唯一郎

伊藤 淺之助
石城郡飯野村

門傳清吾
平町橋小路
電話二四番

植田水力電氣株式會社
社長 金成通

賀正

元代議士 高岡唯一郎

伊藤

淺之助
石城郡飯野村

飯野村長 山崎吉平

松村病院 高久病院 赤心堂病院
平南町電話二七番 平田町電話五三番 平田町電話四七五番

と思ひます。ともすれば、
ドナタト
オツシヤル
郡電平支店にては「郡市の
が更らに平町の夜をして灯
る試みとして是れが後援を
承認した
平町橋樑小路
電話二四番
鈴木時計店

俳句に詠まれた牛

初寒や鳥を乗る牛の鞍
嵐雪

一夜明けたる元朝の清々し
き初空の下に悠々と遊ぶ牛
鞍上いたづら者の初鳥め
嬉々として戯れて居る牛に
もしたき光景である

誰ぞ蘭采に餅負ふ丑
のとし
山家迎春と題してある元録
の昔より婿殿の里入りには
鏡餅を背負ひて来れるにや
鏡入りや牛台點して大原
迄

京へ奉公した人が宿下りに
とて牛に乗つたら差圖も
ないのに故郷の大原へ向ひ
て歩き出したさても合點の
よき事かな

牛の居る方を残して若菜
雄吉
アラタ々あそこ若菜がた
んとあるんだけれど牛が居
て悪いワヨ少ないが是非が
ない此方を摘みませう
里の子よ梅折り残せ牛の
むち

牛を追ふのにそこらの木の
枝を折るのはよけれど梅だ
けは折らずに残してくれ
りや里の子供達よ
陽炎や耕す牛の止りがち
彩雲

里の子達が氣をいらちて何
でもかまはず木の枝を折り
取りて牛の尻を打たたく
もわりなじや
春風や堤越しなる牛の聲
來山
叩かれて啼くか快さに吼ゆ
るか

菜の花や鼻のよこれた牛
が来る 蝶夢
耕し終へて歸路につけるか
其背に横乗りしたる里の子
は仙家の童子と見ゆるもよ

謹賀新年

磐城銀行専務
白井一郎

松屋號
和洋商遠藤松之助
平長橋町電話五二二番

縁川喜三郎
平町橋樑小路

縣社子歛倉神社
社司 山部正宣

佐藤鐵工所
平町月見町 電話三六二番

常陸海岸線特約店
住吉屋分店
酒井喜七

關内藥局
關内榮助
平町四丁目 電話四〇番

樂天地
主 吉田庄三郎
平町新田町 (移轉)

平田町 電話三三二番

丸登株式會社
川添房次郎

住吉屋支店
平町前 電話一四九番

小野圓次七郎
同和
平長橋町 電話二五二番

尼子亭
松ヶ岡公園
電話三三〇番

鈴木盛之助
平町田町

中山炭礦營業所
中山雅司
平町材木町七

柏屋刺染物部
平町材木町

乾書店
學校用品文房具
平町橋樑小路 電話三一五番

銘酒大柏發賣元
柏木平支店
宗形忠次郎
平町長橋町 電話二二二番

合資會社

三井吳服店
海岸線平町三丁目電話三八番

雜貨商 大一屋商店
平町二丁目 電話十三番

阿部政右衛門
平町前 橋樑小路電話四五八番

中野甲藏
平代理 橫濱生命保險株式會社
店主 電話一〇番

平藝妓屋組合

玉谷三 甲好 山久好 二之形好 竹之形好 橋本好 島之家 亭家 家本 家子 家口 川

吉野 開湖 仲清 福澤 品家 林美 富美 野米 口京

磐城病院

平町田町電話一四四番

和久井屋漆器店
平町一丁目 電話四〇五番

